

令和2年度 第2回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

- 日時：令和2年10月22日（木）10時00分～12時00分
- 場所：フェリエ南草津5階 市民交流プラザ中会議室
- 出席委員：肥塚座長、加藤副座長、及川委員、武田委員、阪本委員、秦委員、松浦委員、伊庭委員、内山委員、亀石委員、北村委員、松井委員
- 欠席委員：田畑委員、田中委員、神部委員、深尾委員、有村委員、片岡委員
- 傍聴者：なし
- 事務局：堀田理事、本村調整員、中瀬参事、坂居専門員、辻会計年度任用職員

1.開会

【事務局】

定刻になりましたので、これより令和2年度第2回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきたいと思っております。まず草津市総合政策部理事、草津未来研究所の副所長の堀田から御挨拶をさせていただきます。

【堀田理事】

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業につきましては、昨年度から事業の柱となる3つの事業プロジェクトを定め、それらに関連を持たせるかたちでアーバンデザインスクールやアーバンデザインセミナー、社会実験準備事業などの事業を行っているところでございます。

今年度、上半期につきましては新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の影響もあり、事業プロジェクトや各種事業を進めていくことが難しかったのですが、試行錯誤をしながらようやく動き出したものもございますので、本日は皆様にそのあたりの御報告をさせていただきます、今年度下半期や来年度に向けて参考とさせていただきたいと考えております。

また、本市では、10月19日からは11月13日にかけて、南草津駅東口ロータリー前の市道において一般車両の通行規制を行いながら、交通渋滞の緩和に向けた社会実験を実施しているところですが、中長期的な視点から草津市が住みやすいまちになるよう、皆様それぞれのお立場から様々なアイデアや御意見を頂戴することができれば幸いです。

本日はこれまでの取組をさらに発展させていけるよう、御出席の皆様のお知恵を借りたいと思っておりますので、ぜひ忌憚のない活発な発言をお願いします。

【事務局】

それでは、議事に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきたいと思います。本日の次第1枚と資料1、2、あと参考資料です。皆様、お手元にございますでしょうか。また、本日欠席は立命館大学の田畑委員、田中委員、滋賀大学の神部委員、パナソニック株式会社アプライアンス社有村委員、株式会社滋賀銀行草津支店片岡委員です。御欠席の皆様には資料を送付して御意見を頂戴することになっております。

開会にあたりまして座長からひと言お願いいたします。

【座長】

皆様、おはようございます。コロナウイルスの状況が続いている中で大学も対面授業など難しくいろいろ試行錯誤しているところがございます。UDCBKの事業も従来とは違った形で進められているということで、新しい状況の中での中間報告ということなので、いろいろ御意見いただけたらと思います。よろしく申し上げます。

【事務局】

それでは、座長に進行をお願いしたいと思います。

2. 報告

【座長】

それでは、今年度の中間報告をしていただきます。

【事務局】

(資料1の説明)

【A委員】

情報発信の件で、ホームページを新しくするのは難しいとの事でしたが、なにもUDCBKが情報発信しなくても、インスタグラムなど利用者の方にハッシュタグ「#UDCBK」とつけて発信するようお願いする方法をでもよいのではないかと。今はグーグルで調べる検索、特に若い方はハッシュタグ検索が主流になっているので、そのような呼びかけをすればよいのではないかと思います。

【事務局】

インスタグラムを開設しなければというところばかりに思考が行き、利用者に発信していただくというのは盲点でした。参考にさせていただきたいと思います。

【B 委員】

4、5 ページのアーバンデザインセミナーの人数のところですが、だいたい参加者 30 名となっていてなぜか直近の 10 月 14 日の参加者が 18 名と減っていますが、何か理由があったのでしょうか。集客はどのような形でされているのでしょうか。

【事務局】

周知につきましては、すべて同じようにさせていただいており、少なかった要因の分析は難しいですが、今年度はできる限り委員の皆様やみなくさビジョンの懇話会の委員の皆様にも周知しており、そこから新しい参加者が出てきているのが現況でございます。7 月の第 2 回目から第 5 回目は学生の方も御自宅から参加いただき、非常に多かったというのがあります。9 月に入って学生の活動が増えた中で、時間帯がなかなか合わなかったということもあるかもしれないので、そのあたりも今後気を付けながら参加者を募っていきたいと思います。

【C 委員】

アーバンデザインセミナーやスクールの参加者は公募委員や学生が多いのでしょうか。また、どのような方が参加されているのでしょうか。

そして、セミナーやスクールを受けた参加者が今後どのような行動をするのを期待して開催されているのでしょうか。また、それが何に繋がっているのでしょうか、今までの事例があればお聞かせください。

【事務局】

セミナー、スクールの参加者につきましては、学生やアーバンデザインセンターびわこ・くさつに関わっている方が多いですが、今年度オンラインを用いていることと、健康や医療関係の分野で違う角度からアーバンデザインというものを見て開催していることで、今まで参加されていなかった方が参加されているという現状があります。セミナーの方は、今は難しいですが、会場で出会った方同士が交流を持って繋がっていただくということを意識しています。アーバンデザインというものが自分の日常から遠いものだと思われる方が多いですが、そうではないということに気付いていただくこともセミナーのねらいとしております。例えば、オンラインを用いて御家族で参加されていた中で、中学生の子どもさんが工学から福祉を考える事ができるんだと言われていたと聞きました。福祉や都市計画は専門分野の人だけで考えていたらいいということではないことにまず気付いていただいて、自分たちの生活の中で関心を持っていただくということが非常に大事だと思っております。

スクールの方は専門的なものになっておりますので、UDCBK で次の活動に参加いただく市民の方を募るといふねらいも持っています。昨年度はスクールに参加された方が

自分たちのやっていることを活かして繋げていながら、セミナーという形で市民の皆様に関心を持っていただくようなことができないか、また、その担い手になれないかということで、セミナーの御提案をいただき、実際セミナーをさせていただいたこともございます。また、学生の中には今年度の社会実験準備事業等の主担当として進められているということも出てきております。まちの中で動いていただく方を増やしていくというのが、スクールでは重要なことだと思っております。

セミナーを受けた参加者がどう変わっていくかというところの一つの例ですが、今年、都市と交通プロジェクトではワークショップをする前に集中的に4回セミナーを行っています。最初はZoomもやったことのない市民の方がセミナー、座学を始めて、その後6、7人ぐらいで班ごとに分かれて少人数で2時間ワークショップを行ったのですが、熱心に参加されて意識が変わられました。参加者に感想を聞いてみると、まちづくりについて以前は目の前の問題を要求をするものだと思っていたけれど、今回のセミナーとワークショップに参加して自分たちのまちの10年、20年先のことから考えていかないといけないと、そのような手法が今回実際参加して大変勉強になったとおっしゃっていました。まちづくりにはいろいろな手法があると思いますが、一緒になって考えることで一つ成果があったのではないかと考えています。ワークショップを通じてある班ではオフ会をやろうという話が持ち上がったたりして、横のつながりも出来たのではないかと思います。参加者は学生、市民、学校の先生など様々で、そのつながりで別の発展形も出てきているので、UDCBKを通じてどんどん企画していきたいと思っています。単に単発でやると終わってしまうので、UDCBKでは次にどう繋げてまちづくりに貢献していくかというところで継続的にやっていきたいと思っています。

【副座長】

ワークショップに経営指導員が参加させていただきました。普段は狭い範囲で活動しがちですが、また違った感覚でこういったところに参加させていただきました。間接的ですが今後も経営指導という面で活かしながら継続しながら、このテーマに限らず参加できればと思っています。それが市全体のまちづくりへの繁栄につながっていくと思います。

【D委員】

アーバンデザインスクールでは5回シリーズで3回以上参加された方に修了証を出しているのですが、その修了証を得ている方を対象にしたワークショップなどが出来たらいいと思いました。

【座長】

ありがとうございました。それでは次に、南草津エリアまちづくり推進懇話会につい

て報告をお願いします。

【事務局】

(資料2の説明)

【D 委員】

みなくさビジョンの懇話会の状況について、補足させていただきます。3ページ目のコンセプト案で白くなっているところはまだ決まってないということで、いいコメントをいただけたらと思っています。ゾーニング案については、懇話会の会議の中でゾーニングという考え方自体が適切ではないのではないかという意見もありました。論点1の課題4の中では交通体系と書いてあるが、論点2の方針のほうでどうするのかということがやはり議論の中では課題とされています。最後の方ではこのことを実現させるために方策を書いていく必要があるのではないかという意見がありました。あと先ほどから説明がありましたワークショップの部分ですが、かなりコンパクトに書いてありますが、懇話会の運営に入っているコンサルタントの方が毎回ワークショップのオンラインに参加して内容を把握してもらっているので、これからのコンセプトの整理などを行っていく予定です。またこちらにも御意見などをいただければできる限り反映したいと思います。

【E 委員】

滋賀医大の向かい側に体育館ができる予定ですが、交通の便の話をぜひ入れてほしいと思います。また、体育館の利用がどのように関わってくるかというところをお聞きしたい。県の仕事で管轄違いかもしれませんが、エリアも近いので意見が言えるなと思いました。

【D 委員】

びわこ文化公園都市のエリアと南草津エリアがどのような対関係で、草津市側からその将来ビジョンをどのように問うていくのかについては私も気になっています。地域的にも大津の地域が広くある中で滋賀県の関係もあります。このような議論は大学の話となりがちですが、JR 南草津駅ともう一つの拠点である草津田上インターチェンジの両方を踏まえた交通という観点から非常に重要な論点であると思います。

【E 委員】

滋賀医大は病院が草津市で、大学は大津市です。登記上のルールで大学は学長がいるところの大津市となるらしいのですが、草津市と大津市、これは人為的に決めたラインなので、行政としてはそうかもしれませんが、住民にとってそれは関係ないです。交通

の便について住民と一緒に考える必要がある。草津市が呼びかけや提案をするのも一つの役割ではないかと思います。

【座長】

おっしゃる通りだと思います。住んでいる人からすると関係のない境界なので草津市としてしっかり認識して、そのような働きかけも必要だと感じました。

【事務局】

ちょうど今、びわこ文化公園都市の関係ですが、実際に滋賀県が中心となって大津、草津、関係のある大学も巻き込んで交通のことだけではなくそれ以外のことも含めて、大学のある滋賀県として人材や技術を活用してうまくできないかと考えようとしています。委員会を設置して進めていきたいということを聞いています。今まで縦割りで行っていたところもあるので、もう少し連携して行っていこうという話を聞いたところです。今伺った内容もみなくさビジョンに含めることができれば入れていきたいと思いますし、今すぐが無理であったとしても最終案の時にでも入れられるようにこちら働きかけていきたいと思っています。

【F 委員】

2点あります。今のことと関連して南草津エリアの草津市の中での役割についてですが、学術研究や大学の情報などは交流の導入になると思えますし、課題に対してのポテンシャルが高いまちなのでいろいろな可能性があると思えます。草津市の中でこの地域がどのような役割を果たしていくのかということところです。

もう1点、文化面で新しい方も多くおられますし、大学が開設されてから随分経ち、古いまち並みもある中で、市民の交流、南草津のまちをこのようにしていくという一つのアイデンティティみたいなものは必要だと思います。今はコロナで祭りなどは難しいかもしれませんが、何か市民の方がまとまって南草津のまちに誇りをもっていくような部分が欲しいなと思いました。

【G 委員】

施策例のところを見せていただいて、まちづくりはいろいろやり方があるし、いろいろなアプローチがあると思いますが、どちらかというとハード面が中心になっているという印象を受けました。例えば、琵琶湖周辺自然文化振興というのは、それなりに歴史的にいろいろな形で受け継がれてきて、いわゆる旧住民と言われている方たちの重要なつながりというものがあります。そのようなものをどのように活かしていくのか、新たな形に広げていくのかということをご疑問に思いました。

【座長】

それぞれ貴重な御意見で、大切なことだと思っています。冒頭の南草津の位置づけと
いうところ、にぎわい・防災拠点、基本方針の3とか5とか、こういう書き方です。コ
ンセプト案のところに入るか分かりませんが、南草津エリアが草津市の中でどのような
位置づけになり、滋賀県南部エリアの中でどのような位置づけになるのかということの
中で、このエリアをどうしていくのかということが常に大切なことだと思っています。
ソフトや文化面について、大切なところと思って伺っておりました。交通問題も昔から
重要と言われながらなかなか進めるのが難しい課題で、さらにこのコロナ禍で公共交
通機関も経営が極めて厳しいという状況です。大学でも利用促進が必要だという話にな
っているようですが、そのような状況を踏まえた上で公共交通機関に限らず交通体系をど
うしていくのか、重要な観点だと思っています。他はいかがでしょうか。

【H 委員】

ワークショップやセミナーでいろいろな提言等が出てくると思うのですが、その提言
を実行する機関、県、市、各地域、学校などに対して、いろいろな分野で必要な意見
をどのような形で情報発信すればいいかということをもう少し力を入れてやったらよい
のではないかと思います。また、交通の話で3ページにゾーニングの絵が描いてある
ところで、老上西学区から立命館大学まで将来的に道路がつながるということで線が結
んでありますが、平野南笠線という都市計画道路も動いておらず現実的に交流ができな
い状態というのが気になっています。

【事務局】

セミナーやワークショップでの UDCBK への御意見という部分ですが、最近、行政
の担当職員等も参加するようになって参りました。オンラインになったことにより様子
が録画でき、後で担当部署に提供するなど働きかけています。あと老上西から立命館の
間の矢印ですが、都市と交通のワークショップでも参加者からこの間の交流は必要では
ないかという御意見いただいておりますので、それも併せて次回のみなくさビジョン
の懇話会では御意見伺った旨を報告させていただきたいと思います。

【B 委員】

私は人という部分でお聞きしたいのですが、資料2の2ページ大学関係の意見のと
ころで、「留学生や社会人経験を有する学生が多き強みを生かす KIFA との連携」「外国語
表記など外国人が暮らしやすいまちづくり」と掲げておられます。今、コロナで観光客
はいなくなっていますが草津にはたくさん外国人がいる中で KIFA との連携というの
は具体的にどのようなことを思っておられるのかお聞かせください。

【事務局】

こちらは立命館大学の国際課の職員にお話を伺った際に、まちの中で日本語表記の看板をよく見かけますが、外国語に対応したものがなく留学生が生活しづらいとか外国人が暮らしやすいようなまちづくりをしてほしいとの御要望をいただきました。今、KIFAと連携して留学生が非常に助かっているという話もあり、教室や施設内での勉強会以外でもまちのデザインに働きかけるような今後の展開があるのではないかと御提案をいただいたところです。

また、KIFAにはやさしい日本語サロンで御協力いただいています。UDCBKには年代を問わず勉強している子どもたちもたくさん来ているので、例えば日本語サロンに来られた方々に御協力いただいて母国語で挨拶してもらった映像をプロジェクターで流せないかという御提案もいただいております。草津市には、イベント時以外でも日常的に外国人の方が多くいらっしゃるということを働きかけて意識してもらうことが大事だと思っていますので、事務局の方でもいただいた御意見を活かしていきたいと思っています。

3. 協議

【座長】

それでは、with/after コロナのまちづくりについて、お願いします。

【事務局】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って生活が非常に大きく変わってきております。皆様の生活や職場、地域でも変わったことが出てきていると思います。半年ほどが過ぎ、次はどのように対応していこうか、例えば課題があつてこういうふうに解決していこうかという動きも出てき始めているのではないかと思います。皆様の身近で起こっていることをお聞かせいただきながら、今後のUDCBKの事業にも反映できればと思っておりますので、御意見よろしく願いいたします。

【H 委員】

まちづくり協議会の関係で、地区防災計画を学区単位で作成したのですが、コロナになって避難所をどのような形で対応していけばいいのか研究していく必要があると思っています。老上西学区では、避難所として学校や市の施設以外の他の施設を確保しており、イオンの駐車場とか近所の駐車場なども避難所として確保していますが、各地域の集会場も含めて何人ぐらい収容できるか、コロナの状況を踏まえて考えていかなければならないと思います。市の方の避難所対策と地域の避難所の対策、防災計画を整理し

ていかなければならないというのが課題かなと思っています。

【座長】

今までのようにはいかないという状況になっているわけですね。課題だと思います。

【A 委員】

フリーランスで仕事をしており、コロナに入る前からグラフィックデザイナーをしています。草津市にはコワーキングスペースが全然ありません。少し打ち合わせをしたり、大学生で技術のある人が少し仕事を手伝ってくれたりすると、とても助かります。少しコーディングしてほしいとか、少し動画の編集をしてほしいとかちょっとした仕事が結構あるので、少しお願いできるスペースがあると非常にありがたいと思います。

【C 委員】

子育て中ですが、コロナで子どもの学校が休校になって学校で勉強ができなくなった時に、インターネットなどいろいろな方法で勉強ができるということに気付きました。しかし、やはりインターネットより直接会って教えてもらう方が子どものためになると思うのですが、例えば大学生がたくさんいる場所とか機会があれば子どもが好きなことを勉強できる機会が増えるのではないかと思います。学校でやらなければいけないことだけではなくて、興味を増やすような環境、交流が増えたら楽しいなと思います。

【事務局】

今、お話にあった子どもと学生との触れ合いについてですが、大学の方も地域の方に来てほしいという思いは非常に持たれています。例えば大学の方でそのような機会があれば行ってみたいと思うのか、またはまち中にそういった機会があった方が行きやすいのか、参考までにお聞かせください。

【C 委員】

大学に限らず、隣の商店にでもどこでも学ぶチャンスはあると思います。近いところで草津市の職業、どのようなお店があってどのような仕事をしている人がいるのかというのが見えるような仕組みがあれば世界が広がると思います。

【事務局】

御意見ありがとうございます。

【B 委員】

立命館大学国際課の学生のサポートで、Zoom でやさしい日本語サロンというものに参加しています。Zoom 自体はすごく良かったのですが、外国の方の中には日本語がう

まく話せなくて、その後 Zoom にも参加できなくなってしまった人もいます。日本語が話せないからみんなが話していることも分からないし、発言も出来ないので、結局 Zoom は無理と言って対面を希望する人が結構います。一番困っている内容は、医療や10万円給付のことなどで、対面も大切だと思いました。対面だと顔色も分かりますし with/after コロナでは対面が必要だと思ったので、また UDCBK に集まりたいと思います。

【D 委員】

オープンスペースを使っていろいろできるという点について、オープンスペースをパブリックスペースのモデルとして実験していく立て付けをこの懇話会の場でうまくできたら良いと毎回思っています。あの場所をそれなりのお金を使って借りていて、そこで楽しい時間を過ごせたというだけでは、それがアーバンデザインなのか、ということになってしまいます。けれども、そのような歩行者の滞留する空間が駅前にもっとあったらいい、という市民の評価を確かめて、さらに、民間なり公共なりが市民に開かれたスペースを持つことが、まちにとっての経済効果もある、ということは何らかの方法で確かめられると良いと思います。そのための社会実験の枠組みが作れば、大手を振っていろいろな活動ができるのではないかと思います。この社会実験の仕組みの作り方自体を、懇話会における一つの議題としても価値あることだと思います。

【座長】

オープンスペースでの社会実験、いいと思いました。

【E 委員】

二つあります。一つは防災計画。コロナの時にうまくいっているところの調査をして南草津に適用できそうなことを探すということ。一つは物資について。コロナで医療マスクや検査用の綿棒などの物資が足りなくなったということがあったので県内や草津の企業で物資提供ができそうなところがあるのであれば、これを機会にどのような企業が調達できるのか、物流について考えておくというのはありかなと思います。

【事務局】

医療を支えるという点で、それぞれ大変重要なことだと思います。

【G 委員】

コロナの状況でいろいろな方が対応されたかと思います。具体的に草津市内ではどのような対応がなされたのか調査をするということはずごく重要ではないかと思います。特に個人商店が事業を継続していくために給付金を頼ったということもあったと思い

ますが、それとは別に新しい事業を展開していくというケースもおそらく少なくないはずなので、それを参考にさせていただくことも重要です。また、こういう時というのは社会の状況が加速的に変化するのが一番の特徴だと思いますのでそこをしっかりと見ておくということ、これから未来に対してどのような社会の変化が起こるのか敏感にアンテナを張るということで、そのような調査は大事ではないかと思えます。

【副座長】

コロナの関係で市内の企業や個人事業主は、非常に影響を受けています。とりあえず国からの補助金や民間の融資で当座は何とかしのげていますが、業種によって影響度は違います。全体として落ち着いてからだと思いますが、現在どのような状況か将来的にどうかという市内の身近な調査は考えていかないといけないと思っています。それと資金面で長引くとしんどくなってくるように思いますので、冬場にかけてパンデミックになったときに果たしてどうなるか、経済の先が見越せないという現状です。

それから、全国的に自然災害があったので、企業の方でも BCP 業務継続計画をしているところが随分増えてきた中でコロナがありました。感染症に対する意識がなくてほとんど皆無という状況でした。中小(企業)問わずそのような状況です。行政も含めて、やろうというところまでまだ行っていないので、当面の事業継続がどうなのかということも大変危惧している状況です。

去年は今頃のコロナ禍を予想していなかったもので、先ほどにも出た10年先20年先を読むかという話ですが、せつかくのビジョンを作るのでしたら10年先よりももう少し大きく考えてみたらどうでしょうか。もともと瀬田と草津と栗東は一括りということで大きな観点で見たいこうと、文化ゾーンも産学連携で将来的にはシリコンバレーにしていこうという広大な構想もあったようです。今となってはどうなったのかという感じですが、継続した賑わい、活動のため、何とか今の状況をしのいで将来につなげて、皆様の多方面からの御意見を活かしていきたいと思っております。

【事務局】

先ほど調査のお話がありましたが、資料1の6ページ、社会実験準備事業等の一覧表のB区分のところですが、下から2つ目に「コロナ禍に対応する持続可能な食ビジネス地域支援システムの構築に向けた調査」とあります。これが今おっしゃられたことに該当するかなと思います。立命館大学の食マネジメント学部の先生がされています。先ほど副座長がおっしゃられたように、今は調査どころではなくて大変な状況で、当初の予定通り進んでいないようですが、草津市の関係部署とも相談されていて今年度どこまでできるか厳しい状況ですけれども調査もされるということで伺っています。

4. 閉会

【座長】

それでは、お時間となりましたのでここで終了とさせていただきますと思います。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、貴重な御意見いただきましてありがとうございました。次回の運営懇話会の時にはこのように進んでいると胸を張って言えればよいのですが、少なくともこういう方向に向かえていますという前向きな御報告ができるように頑張っていきたいと思っております。先ほど最後に御協議いただいた件につきましては、また皆様の御意見をメール等でいただくかもしれませんので、その際にはまた御協力をお願いしたいと思います。

それでは、本日の運営懇話会はこれで閉会させていただきます。皆様ありがとうございました。